

2020年度 環境経営レポート



佐賀板紙株式会社

Saga Paperboard Co.,Ltd
<http://www.sagaita.co.jp/>

活動期間 2020年4月～2021年3月
2021年6月30日

もくじ

	ページ
1.ご挨拶	2
2.組織の概要	3
3.環境経営方針	4
4.過去3年間の環境負荷実績と環境経営目標	5～6
5.主要な環境経営活動計画	7
6.環境経営目標の達成状況と評価	8
7.環境経営活動計画の取り組み結果とその評価	9～10
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反訴訟等の有無	10
9.代表者による全体の評価と見直し・指示	11

1. ご挨拶

当社の歴史は、大正5年(1916年)現在地に肥前板紙株式会社が設立されたことに始まります。

以来、幾多の社会環境や世界経済の変化を乗り越え、また多様化するお客さまのニーズにお応えする製品を開発し、資源の乏しい我が国においてリサイクル可能な紙製品を社会に提供して参りました。

佐賀板紙は紙加工業界のパイオニアとして長年培ってきた貼合技術をもとに王子グループ内での一体事業として紙の持つ可能性を貼合板紙、紙管、紙アングルの分野で追求し続けてきました。我々は、紙加工を通して紙の特性を社会に役立たせることが佐賀板紙の使命と考えております。

当社は2013年6月、持続可能な循環型社会の実現に積極的かつ継続的に取り組むためにエコアクション21を導入致しました。

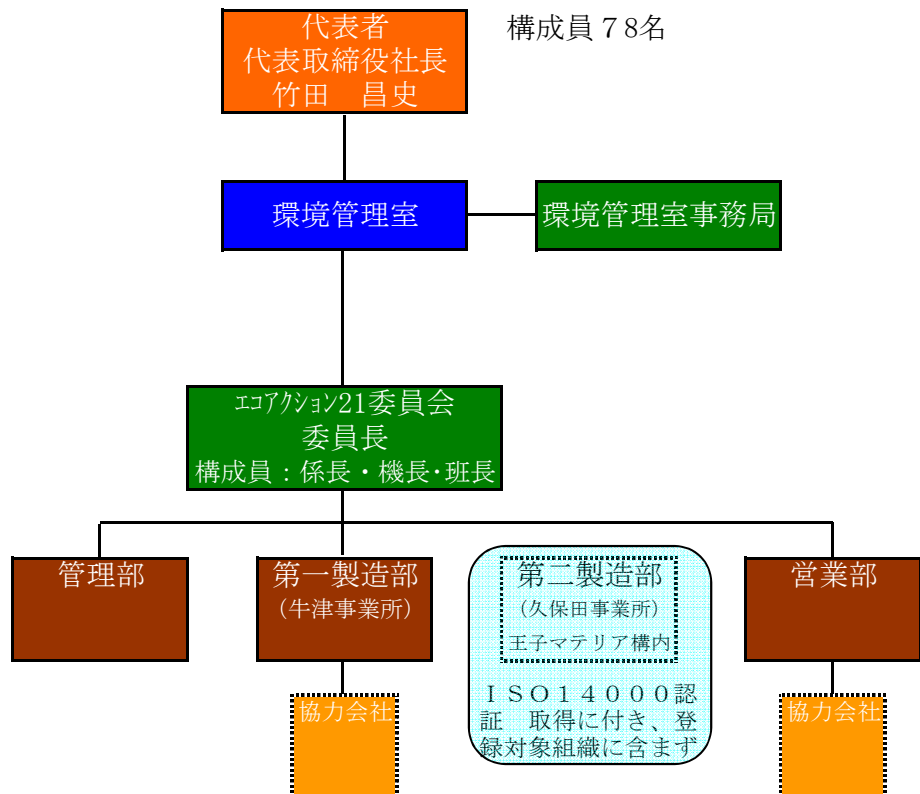
佐賀板紙株式会社
代表取締役社長 竹田 昌史

2. 組織の概要

1. 事業者名 佐賀板紙株式会社
- 代表者氏名 代表取締役社長 竹田 昌史
2. 所在地 (対象組織) 牛津事業所 〒849-0302 佐賀県小城市牛津町柿樋瀬1140番地
- ISO14000認証・取得済み 〒849-0204 佐賀県佐賀市久保田町1番地
(久保田事業所) (王子マテリア株式会社 佐賀工場内)
3. 環境管理責任者
担当者氏名 安全衛生・環境管理室長 小林 均
開発技術室長 小林 均
連絡先 TEL:0952-66-1231
FAX:0952-66-1475
E-mail:kobayashi282213@oji-gr.com
<http://www.sagaita.co.jp>
4. 事業の概要 (対象活動) 製紙用紙管、一般紙管、紙アングル、紙紐、製本用芯材の製造販売
5. 事業の規模 事業年度:4月～翌年3月

(単位)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
売上高 (百万円)	1,421	1,474	1,592	1,470	1,226
従業員 (人)	30	27	28	28	29
敷地面積 (㎡)	44,061	44,061	44,061	44,061	44,061

6. 対象組織



*2021年3月末現在

3. 環境経営方針

佐賀板紙株式会社は、リサイクル可能な紙加工製品を社会に提供することで、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- 1、製品の開発・生産および流通の各段階において、常に環境への影響を考え、環境負荷の少ない紙加工製品を社会に提供します。
- 2、企業活動に関わる法規制を常に把握し遵守します。
- 3、次の事項を省資源・省エネルギーの重点的なテーマとして、環境保全活動を推進します。
 - (1) エネルギー使用量を抑え、二酸化炭素の排出量を削減
 - (2) 廃棄物排出量削減
 - (3) 水使用量（総排水量）削減
 - (4) 原紙歩留まりの向上
 - (5) 化学物質は適正に使用
 - (6) グリーン購入の促進
 - (7) 地域貢献活動の推進
- 4、環境教育・訓練の実施により、従業員はもとより関連会社にも周知徹底し、全員参加の環境保全活動を推進します。
- 5、環境活動レポートを作成し、環境取り組みの状況を公表します。

2017年6月28日

佐賀板紙株式会社

代表取締役社長 竹田 昌史

4-1. 過去3年間の環境負荷実績

*紙加工業においては、生産量は重量で捉えるのが一般的である。環境負荷項目の総量は生産重量と密接な関係があるため、全ての目標は仕掛り品も含めた延べ生産高重量原単位で評価することが妥当と考える。ただし、原紙歩留まりについては製品生産高で求めた。

4-1 主要な環境負荷の実績把握

*使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の2017年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	該当職場	2016年度 基準年	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績
温室効果ガス 排出量 原単位	温室効果ガス排出量原単位	二酸化炭素	kg-CO ₂	279,944	302,149	279,494	250,174
		二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO ₂ /T	31.747	36.184	36.525	38.307
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	522,851	570,572	524,960	476,964
		電力使用原単位削減	kWh/T	59.294	68.329	68.602	73.033
	構内運搬燃料	軽油	L	8,066	8,396	8,080	7,020
		軽油使用原単位削減	L/T	0.915	1.005	1.056	1.075
	冬季原紙加温用ボイラー燃料	LPG	kg	4,000	4,600	4,600	3,200
		LPG使用原単位削減	kg/T	0.454	0.551	0.601	0.490
	社有車	ガソリン	L	2,020	918	1,244	576
		ガソリン使用原単位削減	L/T	0.229	0.110	0.163	0.088
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	29.4	37.8	33.3	26.3	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.003	0.005	0.004	0.004	
水使用量原単位	水	m ³	1,283	1,190	1,197	1,152	
	水使用原単位削減	m ³ /T	0.145	0.143	0.156	0.176	
原紙使用歩留まり	原紙	t	7,736	7,695	6,939	6,017	
	原紙歩留まり	%	85.2	84.2	86.2	85.1	

単位Tは延べ生産高を表している。

4-2. 環境経営目標

弊社における2016年度の環境負荷実績を把握し、2016年度を基準年として、2020年度から2022年度の目標を次のとおり定め活動を開始した。

原紙歩留りは1.0%向上、他は1.0%削減を目標とした。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	2016年 基準(実績)	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標	
温室効果ガス 排出量 原単位	二酸化炭素	kg-CO ₂	279,944	▲1%	▲1.5%	▲2%	
	二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO ₂ /T	31.747	31.429	31.271	31.112	
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	522,851	▲1%	▲1.5%	▲2%
		電力使用原単位削減	kWh/T	59.294	58.701	58.404	58.108
	構内運搬燃料	軽油	L	8,066	▲1%	▲1.5%	▲2%
		軽油使用原単位削減	L/T	0.915	0.906	0.901	0.896
	冬季原紙加温用ボイラー	LPG	kg	4,000	▲1%	▲1.5%	▲2%
LPG使用原単位削減		kg/T	0.454	0.449	0.447	0.445	
社有車	ガソリン	L	2,020	▲1%	▲1.5%	▲2%	
	ガソリン使用原単位削減	L/T	0.229	0.227	0.226	0.224	
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	29.4	▲1%	▲1.5%	▲2%	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.003328	0.00330	0.00328	0.00326	
水使用量原単位	水	m ³	1,283	▲1%	▲1.5%	▲2%	
	水使用原単位削減	m ³ /T	0.145	0.144	0.143	0.143	
原紙使用歩留まり	原紙	t	7,736	+1.0%	+1.5%	+2.0%	
	原紙歩留まり	%	85.21	86.06	86.49	86.92	
古紙配合紙100%使用継続				遵守			
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、 リスクマネジメント完全実施			
グリーン購入の推進		品目数		4品目	4品目	4品目	
地域貢献活動の推進		回数		4回/年	4回/年	4回/年	

* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の2017年度実排出係数0.463kg-CO₂/KWhを使用して求めた。

5. 2020年度における主な環境経営活動計画

原単位管理実施項目	統括責任者	担当部署	活動項目
1.二酸化炭素排出量原単位を2016年度比1.0%削減 電気使用量削減 原単位を2016年度比1.0%削減 リフト軽油使用量削減 原単位を2016年度比1.0%削減 ボイラーLPG使用量削減 原単位を2016年度比1.0%削減 社有車がリン使用量削減 原単位を2016年度比1.0%削減	環境管理室長	営業 管理 製造 営業 製造 営業・製造 製造 営業 営業	1 空調の適温化(冷房28度程度、暖房20度程度)を徹底する 2 パソコンの省エネ設定を徹底する 3 エアコンのフィルター掃除回数を増やす 4 不要な照明の消灯 5 生産設備(コンプレッサー)の効率化 1 エコ運転の実施 2 素材、製品の再移動を少なくする 1 ボイラー運転時間の標準化 1 エコ運転の実施 2 社有車(ハイブリッド)の有効利用
2.廃棄物排出量原単位を2016年度比1.0%削減 廃棄物排出量削減	環境管理室長	全社 製造 製造	1 分別強化でリサイクル(古紙)推進 2 素材運搬時のラッピングフィルムの減量 3 糊ポット皮膜の発生抑制
3.水使用原単位を2016年度比1.0%削減 水使用量削減	環境管理室長	全社 製造	1 節水の周知徹底 2 漏水の定期点検
4.原紙使用歩留まりを2016年度比1.0%向上 原紙歩留まりを向上させる	環境管理室長	製造 製造 製造	1 素材寸法を適正化する 2 段取り回数を減らす(リピート品の素材在庫を増やす) 3 指定本数以上を生産しない(1本たりとも)
5.古紙配合紙100%使用継続	環境管理室長	管理	新規原紙の購入に当っては、証明書を入手する
6.使用化学物質の把握と適正使用		管理・製造	1 SDS、新規使用原材料安全シート取得、リスクマネジメント実施
7.グリーン購入の推進	部長	管理	1 グリーン相当事務用品の調査購入
8.地域貢献活動の推進	室長	全社	1 敷地周辺道路のごみ拾い実施

6. 環境経営目標の達成状況と評価

エコアクション21の運用を行った、2020年4月から2021年3月までの1年間の目標に対する実績は次の通りであった。

* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の九州電力の2017年度実排出係数0.463kg-CO₂/KWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理 実施項目	区分	単位	2016年度 (基準年度)	2020年度		目標達成率	評価
				実績 上段: 使用量実績 下段: 原単位	原単位目標	実績 上段: 使用量実績 下段: 原単位		
温室効果ガス 排出量削減項目	CO ₂	排出量	kg-CO ₂	279,944	▲1.0%	250,174	78	△
		原単位	kg-CO ₂ /T	31.747	31.429	38.307		
	電力	使用量	kWh	522,851	▲1.0%	476,964	76	△
		原単位	kWh/T	59.294	58.701	73.033		
	構内運搬燃料 原単位1.0%削減 (リフト燃料)	軽油	使用量	L	8,066	▲1.0%	7,020	81
原単位	L/T	0.915	0.906	1.075				
冬季原紙加温燃料 原単位1.0%削減 (ボイラー燃料)	LPG	使用量	L	4,000	▲1.0%	3,200	91	△
		原単位	L/T	0.454	0.449	0.490		
社用車営業車燃料 原単位1.0%削減	ガソリン	使用量	L	2,020	▲1.0%	577	161	◎
		原単位	L/T	0.229	0.227	0.088		
廃棄物排出量 原単位1.0%削減	産業廃棄物	使用量	t	29.4	▲1.0%	26.26	78	△
		原単位	L/T	0.0033	0.0033	0.0040		
水使用量原単位1.0%削減	水	使用量	m ³	1,283	▲1.0%	1,152	78	△
		原単位	m ³ /T	0.145	0.144	0.176		
原紙使用歩留まり 1.0%向上	原紙	使用量	t	7,736	0.010	6,017	98	△
		原紙歩留まり	%	85.21	86.06	85.1		
	製品生産高		t	6,592		5,980		
	延べ生産高 (含む仕掛品)		t	8,818		7,652		
古紙配合紙100%使用継続			新規原紙の購入に当たっては、証明書入手する				新規購入原紙なし。	
使用化学物質の把握と適正使用			SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施				○	
環境法令等の遵守			環境カレンダーに基づき、自主測定・各種届出実施				○	
グリーン購入の推進		品目数	4品目	ジャチハタ、修正テープ、エコレバネ、フラットファイルVA4、ハンチフォース新規購入。				
地域貢献活動の推進		回数	4回/年	5月、9月、11月、3月計4回実施した。総勢55名。				

* 原単位は工程が一次、二次工程等があり全てでエネルギーを使用するので対延べ生産高歩留まりは製品生産高で求めた。

評価	よく出来た	◎	120%以上
	ほぼ出来た	○	達成
	努力を要す	△	未達

温室効果ガス排出量削減項目の内、社用車燃料に関してはプリウスPHV、EVリーフの導入、エコ運転に徹したことにより大幅にクリアできたが、電力使用量・構内運搬燃料・冬季原紙加温燃料に関しては、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等の影響により突発的で大幅な受注減発生に対応し生産効率を上げるべく各種対策を行なったが、結果として生産量の減少によりエネルギー使用量は減少したものの、原単位は目標を達成することが出来なかった。

7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(1)

7. 1 二酸化炭素排出量の削減

目標原単位に対して達成率は78%であった。

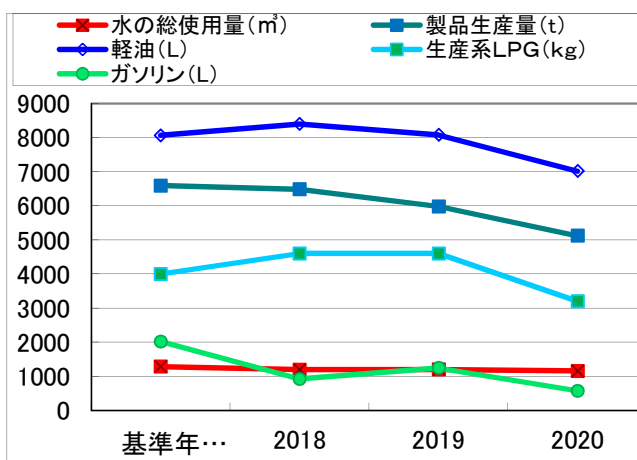
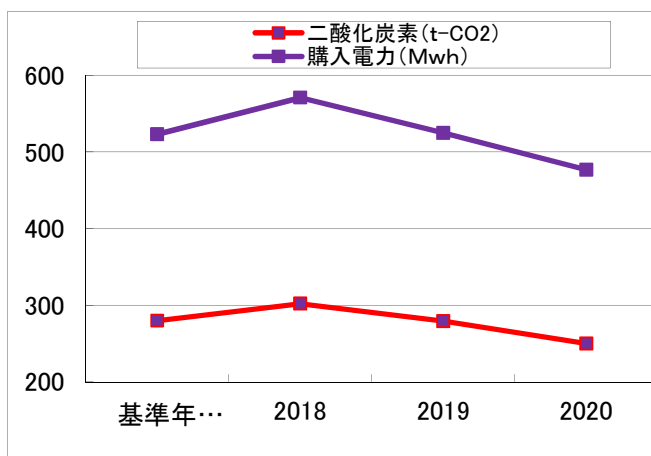
社用車燃料に関しては、車両がPHV1台とEV1台に更新され、ガソリン使用量に大幅な改善が見られているが、更なる削減のためエコドライブの実践、適性空気圧の点検頻度向上、ナビ地図の更新も実施している。また、新たに移動距離によって使い分けを実施（例えば近場はEV車を使用）する他、PHV、EVともに早めのブレーキングを行うなど回生エネルギーを有効利用し燃費、電費向上の運転に努めている。

電力使用量は、突発的で大幅な受注減に対応し休業日を設け生産日に集中して生産を行う等の対策を実施したが、電力を大量に消費する乾燥機を使用する製品の受注が多かったこと、またエアコンやヒーター等職場環境を維持するための負荷を低減することが出来ず目標未達となった。

構内運搬燃料については、工場内の機械配置を一部変更し構内の横持運搬回数を減らすことに成功したが、出荷体制変更があったことで作業効率が悪化したこともあり、目標値に到達できなかった。

冬季原紙加温燃料は、加温を必要とする製品受注減により使用量は減少したが、原単位の目標には未達となってしまった。

社用車燃料以外は原単位の目標未達と成ってしまったが、従業員の環境・コストダウンに対する意識は年々向上してきているので、今後も目標達成に向け更なる対策の実施に努める。

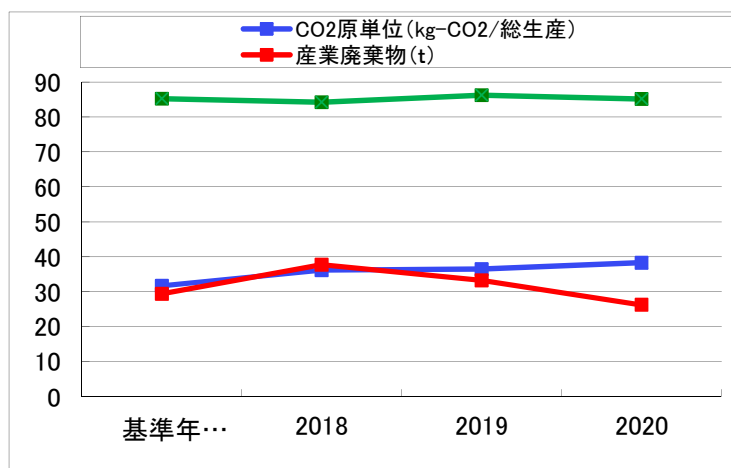


7. 2 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は目標に対して78%であった。

ストレッチフィルムやPPバンドは従来リサイクル品として引取りされていたが、リサイクル品としての引取りが不可となってしまったため廃棄物処理となり、廃棄物排出量が増加した。

また、新型コロナウイルス感染症対策としてドアノブなどのアルコール消毒の際にウェスを使用したことで廃棄物量が増え目標を達成出来なかった。



7. 3 水使用量の削減

水使用量は目標に対して78%であった。

節水表示や、こまめに蛇口を開閉し流しっぱなしにならないよう節水に努めましたが、新型コロナウイルス感染症対策として手洗い回数が増えたことで目標を達成出来なかった。

今後も従業員一人ひとりがこまめに蛇口を開閉し流しっぱなしにはならないよう節水を心掛け、使用量削減に努めていく。

7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(2)

7. 4 原紙使用歩留まりの向上

生産工程の見直し調整で段取り換え回数減に取組み、クリアーした。

7. 5 古紙配合紙100%使用を継続

新規に使用を始めた原紙はなかった。

7. 6 使用化学物質の把握と適正使用

含有する物質に関する証明書」(王子HDシステム)をメーカーより取得。

7. 7 グリーン購入の推進

シャチハタ、修正テープ、エコレパネ、フラットファイルVA4、パンチフォースを購入した。

7. 8 地域貢献活動の推進

5月13名、9月15名、11月14名、3月13名の参加人員にて工場より牛津駅、江津交差点までの清掃活動を実施。



会社周辺での清掃活動

7. 9 次年度へ向けて

電力使用量は、工場生産設備に関しては不使用設備を確実に停止すること、圧縮空気源のコンプレッサ設定圧力低下、電熱ヒータ使用機器の温度制御化並びに保温等の対策を施工する他事務所、工場内共通事項として、照明・パソコンの不使用时の電源オフ、冷暖房設備の適正な温度管理を徹底し、これまで以上に不要な電力消費を一人ひとりがよく考え更なる節電への意識を高めて使用量削減に努める。

また、構内運搬燃料については製品の横持ち回数を抑え、社用車営業車燃料については、エコドライブ運転の徹底、適性空気圧の点検頻度向上、ナビ地図の更新も都度実施して更なる削減に取り組んで行く。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

9.1 環境活動の取組結果の全体評価

「環境関連法規等の取りまとめ／遵守状況の確認及び評価の結果」「2020年環境活動計画の実施状況と評価」では、問題なく活動が行われていることを確認した。「環境目標の達成状況と評価」については、ほとんどが未達である。これはコロナの影響による生産減の影響もあるが、従業員の意識の問題もあると考える。

関係会社への指導は適切に行われており、事業所内全体の環境経営が着実に前進している。

9.2 環境システムが有効に機能しているか

設定目標達成に向け、定められたルールを基に日々取り組みを行ってきた。

各担当者毎に設定された具体的目標を確認し、担当者が責任を持って、関係者全員の行動を指導した。

9.3 見直し結果

環境に関する周辺環境、社会環境の変化が起きており、目標の再設定を行った。

コロナの影響もまだどうなるかわからないので、適宜目標を再設定することも検討必要。

エコアクションも導入後8年目となり、マンネリ化を防がなければならない。教育訓練の見直しにより、意識向上を行う。

尚、環境経営方針、実施体制は継続して行う。